

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 思考力、判断力、表現力等	イ 知識及び技能
資料から必要な情報を読み取る力や社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を身に付ける。	問題解決に必要な情報を「社会的事象の見方・考え方」に沿って読み取り、まとめる技能を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第3学年	- 資料の特徴を捉え、分かったことや考えたことを表現する力が十分に身に付いていない児童がいる。ア - 市内の交通（駅や街道の名前）や近隣の市の名称、地図記号等に関する知識の定着には個人差がある。イ	- 各単元で、副読本などの資料を読み取り、考えたことをノートに記述したり、白地図に表したりする場면을意図的に設ける。ア - 地域探検などの体験的な学習を重視するとともに、繰り返しミニテストを行うなどして地図記号などの定着を図る。イ	通年 通年	
第4学年	- 資料を見て読み取れる情報から、社会的事象との相互関係を考える力が身に付いていない児童が見られる。ア - 問題解決に必要な情報を集めたり、まとめる力が身に付いていない児童が見られる。イ	- 授業の中で資料から読み取れることを表現する時間を確保し、考えたことをノートに記述したり、友達に説明したりすることができるようにする。ア - 教科書だけでなく、ICT 機器を活用して自分で関連した情報を集め、焦点化してまとめられるようにする。イ	通年 通年	
第5学年	- 資料から読み取ったことを社会的事象や既習事項に関連付けて多角的に考える力が不十分な児童がいる。ア - 既習事項と関連付けながら図や資料を読み取ったり、資料の取舍選択、必要な情報を集めたりすることに課題がある児童がいる。イ	- 資料から読み取ったことを基に、人々の工夫や努力、社会の動き等を考えさせる活動を増やす。また、意見の交流を活動に取り入れて友達の考えと自分の考えの相違点を確認する時間を確保する。ア - 自分の考えを発表するときには、どの資料を根拠としているのかという点を重視して発表させる。イ	通年 通年	

第6学年	資料から読み取ったことを社会的事象や既習事項に関連付けて多角的に考える力が弱い。ア	資料から読み取ったことを基に「なぜそう考えたのか」「資料のどこからそう思ったのか」発問し、人々の工夫や努力、社会の動き等を考えさせる活動を増やす。また、意見の交流を活動に取り入れて友達の考えと自分の考えの相違点を知る時間を確保する。ア	通年	
	資料情報を読み取ることは概ねできているが「社会的事象の見方・考え方」に着目して読み取り、まとめる力が弱い。イ	課題解決に向けて必要な情報は何か資料を読み取る際に視点を明確にする。イ	通年	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について 3年：ロイロノートの提出機能を使い、児童がそれぞれの考えを確認したり、質問したりする場面を意図的に設定する。 4年：ICT 機器で資料を提示したり、自分の考えを書いて提出したりする場面を意図的に設定する。 5年：ロイロノートを使い、考えの共有や比較をする場面を意図的に設定する。また、めあてを児童の気付きや疑問などから設定する。 6年：めあてを児童の気付きや疑問などから設定する。ロイロノートを活用し、友達同士考えを共有する。また、友達のよい所を自分の考えに取り入れる。	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について 3年：単元に関わる「人」に着目し、それぞれの人物の吹き出しの言葉を考えさせることで、学習内容を振り返らせる。 4年：複数の資料を用いて、そこから読み取れることや関連性を考えさせるような学習を行う。 5年：他の単元との関連に気付けるように促し、広い視野で社会の動きが捉えられるようにする。また、学習感想を書かせることで、学習内容を振り返らせる。 6年：めあてに対するまとめを自分の言葉で書かせる。その際、授業で扱ったキーワードに着目させる。また、それを全体で共有する。
--	--